

# 絵で伸び伸び 地域育む

## 東京からUターン・中川さん

御坊市出身で、東京を拠点に活動していたイラストレーターの中川貴雄さん(41)が、家族でUターンし、今月2日、市内の商店街の空き店舗にギャラリーを開いた。作品を展示即売するほか、小学生らに物作り教室も開催する計画だ。「教室やワークショップを通して地域の子どもたちの創造力を育て、成長に役立ちたい」と夢を膨らませている。(森本寿夫)

## 御坊でギャラリー

店名は「トリノスギャラリー」。「巣からヒナが育つように、子どもたちが絵や工作の才能を開花させ、巣立っていったほしい」という思いを込めた。

中川さんは、御坊市で生まれ育ち、高校卒業後、アルバイトを経て大阪市の専門学校で3年間、イラスト

や絵本作りを勉強した。2010年に結婚したのを機に、東京を拠点に制作活動を始めた。

絵本の挿絵や有名メーカーのポロシャツのイラストを手がけたほか、大阪メトロの緑橋駅のホームの壁画用イラストや福井市自然史博物館分館の内装も担当。仕事の幅を広げてきた。

一方で、夢のある絵本作りたいという思いはいつも持ち続けていた。14年、イソップ童話や日本の昔話に独自の絵を描く展覧会を開催。これが出版社の編集者の目に留まり、2年後に1作目の絵本「わすれんぼうのサンタクロース」の絵を担当、現在も版を重ねる人気作品となった。この絵本も含め、最近5年で計10冊の絵を受け持ったという。

Uターンを決めたのは小

学3年と3歳、0歳児の我が子に「自然豊かなふるさとで、伸び伸びと育ててほしい」との思いから。コロナ禍もあり、オンラインで仕事ができる環境が普及したことも後押しした。

昨年7月に帰郷。御坊市の「商店街空き店舗対策事業」の認定を受けて店を借り、壁や天井を明るい黄色や白に塗り替えた。壁一面に、クマなどの動物を描いたB5サイズやはがきサイズの作品など約500点を展示している。教室では、一緒に絵を描いたり、工作をしたりして、子どもたちが考える力を身に付ける場にしたという。

中川さんは「自分の絵を見てもらうのはもちろん、人と人のつながりの場、子どもたちが楽しみにしてやってくる場所になりたい」と意気込んでいる。

ギャラリーは、御坊市蘭の本町商店街にあり、営業時間は午後1〜5時。不定休。問い合わせは、メール(gobo@ekakino-na.kagawa.com)か。



「ギャラリーが子どもたちの居場所になれば」と話す中川さん。壁一面に動物などの絵が展示されている(御坊市)